

# 青森県スポーツ振興計画

(平成22年度～平成27年度)

青森県教育委員会



# 第 1 章 計画の概要

---

## 1 計画策定の趣旨

スポーツ<sup>①</sup>は、心身の健全な発達を促し、生活に生きがいや潤いをもたらすとともに、明るく豊かで活力に満ちた社会の形成に寄与するものであり、人々が生涯にわたってスポーツに親しむことは、極めて大きな意義を有しています。

本県では、平成 12 年に「あおもりスポーツ立県推進プラン」を策定し、「スポーツに親しみ、スポーツに強い青森県」の実現を目指した様々な取組を展開してきました。その結果、各種国際大会・全国大会の開催、各種大会での本県選手の活躍など、一定の成果が見られるようになりました。

しかし、その一方で、少子・高齢化、人間関係の希薄化、日常生活において体を動かす機会の減少や、子どもの体力低下など、社会生活全体の活力維持を図る上で憂慮すべき問題が顕在化しています。

また、この間、平成 18 年に、国の「スポーツ振興基本計画<sup>②</sup>」が改定されるとともに、平成 20 年 4 月には、青森県スポーツ振興審議会から、今後、本県が取り組むべきスポーツ振興方策についての提言「豊かなスポーツライフの実現のために」が青森県教育委員会に提出されました。

こうした中、「あおもりスポーツ立県推進プラン」が平成 21 年度末で終期を迎えることから、青森県教育委員会では、平成 20 年 8 月、青森県スポーツ振興審議会に対し、次期青森県スポーツ振興計画について諮問しました。これを受け、平成 21 年 12 月、同審議会から、本県が今後、重点的に取り組むべき方向性が示されました。

以上の経緯により、本県におけるスポーツ環境のさらなる整備に向けて、今後の本県のスポーツ振興の指針となる基本計画として、青森県スポーツ振興計画を策定するものです。

## 2 計画の性格・位置付け

- (1) 本計画は、今後の本県スポーツの振興に向けて、県が目指す基本的な方向性を示すものです。
- (2) 本計画は、県や市町村、関係団体等が連携し、本県のスポーツ振興を継続的・計画的に推進することにより、県民の生涯にわたるスポーツライフの実現を目指すものです。
- (3) 本計画は、市町村がそれぞれの地域の実情に即し、主体的にスポーツ振興施策を進める上で、また、関係団体等がスポーツの機会の提供など、各種活動を展開する上で、参考となる方策を示すものです。

## 3 計画の期間

- (1) 平成 22 年度を初年度とし、平成 27 年度までの 6 年間を計画期間とします。
- (2) 県は、計画の進捗状況等について青森県スポーツ振興審議会に報告するとともに、計画の効果的な推進に努めます。
- (3) 社会状況の変化や国のスポーツ振興基本計画の改定等を踏まえ、必要に応じて計画の見直しを行います。

## 第2章 本県スポーツの現状

### 1 子どもの体格、体力・運動能力について

- ・本県の児童生徒の体格は、男女ともすべての年齢で全国平均を上回っています。また、肥満傾向児の出現率についても、全年齢で全国平均を上回っています。(表1)

**表1** 身長・体重・肥満傾向児出現率の県平均値と全国平均値の比較

(県平均値は平成21年度青森県学校保健調査<sup>③</sup>、全国平均値は平成21年度学校保健統計調査による。上段が県平均値、下段が全国平均値)

		小学校					中学校				高校		
		6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳	14歳	15歳	16歳	17歳
男子	身長 (cm)	<b>117.2</b>	<b>123.1</b>	<b>128.9</b>	<b>134.4</b>	<b>139.9</b>	<b>146.3</b>	<b>154.0</b>	<b>161.2</b>	<b>166.3</b>	<b>169.0</b>	<b>170.5</b>	<b>171.2</b>
		116.7	122.6	128.3	133.6	138.9	145.1	152.5	159.7	165.2	168.5	169.9	170.8
	体重 (kg)	<b>22.2</b>	<b>25.0</b>	<b>28.6</b>	<b>32.3</b>	<b>36.0</b>	<b>40.5</b>	<b>46.7</b>	<b>52.0</b>	<b>57.0</b>	<b>62.2</b>	<b>63.8</b>	<b>65.6</b>
		21.5	24.1	27.2	30.6	34.2	38.4	44.2	49.1	54.3	59.5	61.3	63.1
	座高 (cm)	<b>65.1</b>	<b>68.0</b>	<b>70.7</b>	<b>73.1</b>	<b>75.4</b>	<b>78.3</b>	<b>82.2</b>	<b>85.8</b>	<b>88.7</b>	<b>90.8</b>	<b>91.6</b>	<b>92.0</b>
		64.9	67.7	70.3	72.7	75.0	77.6	81.3	84.9	88.1	90.3	91.2	91.8
肥満傾向児出現率 (%)	<b>8.3</b>	<b>10.0</b>	<b>13.6</b>	<b>16.1</b>	<b>15.3</b>	<b>15.1</b>	<b>16.4</b>	<b>13.0</b>	<b>13.4</b>	<b>18.0</b>	<b>16.1</b>	<b>16.2</b>	
	4.6	5.6	7.5	9.6	10.8	10.6	11.5	9.7	9.6	12.1	11.2	11.3	
女子	身長 (cm)	<b>116.5</b>	<b>122.5</b>	<b>128.2</b>	<b>134.9</b>	<b>141.7</b>	<b>148.0</b>	<b>152.7</b>	<b>155.6</b>	<b>157.0</b>	<b>157.5</b>	<b>158.0</b>	<b>158.2</b>
		115.8	121.7	127.5	133.5	140.3	146.9	151.9	154.9	156.7	157.3	157.7	157.9
	体重 (kg)	<b>21.7</b>	<b>24.5</b>	<b>27.8</b>	<b>31.7</b>	<b>36.0</b>	<b>41.1</b>	<b>45.9</b>	<b>49.4</b>	<b>51.8</b>	<b>53.2</b>	<b>54.0</b>	<b>54.3</b>
		21.0	23.5	26.5	30.0	34.1	39.0	43.8	47.3	50.2	51.6	52.8	52.9
	座高 (cm)	<b>64.8</b>	<b>67.7</b>	<b>70.3</b>	<b>73.4</b>	<b>76.6</b>	<b>79.9</b>	<b>82.8</b>	<b>84.3</b>	<b>85.2</b>	<b>85.8</b>	<b>85.9</b>	<b>85.9</b>
		64.5	67.3	70.0	72.7	75.9	79.3	82.1	83.7	84.8	85.3	85.6	85.7
肥満傾向児出現率 (%)	<b>7.9</b>	<b>9.5</b>	<b>12.5</b>	<b>12.3</b>	<b>12.2</b>	<b>12.9</b>	<b>12.9</b>	<b>12.9</b>	<b>12.4</b>	<b>13.4</b>	<b>11.5</b>	<b>12.1</b>	
	4.2	5.4	7.1	7.6	8.3	8.7	9.0	8.1	8.2	8.5	8.3	8.4	

- ・県が実施した平成21年度新体力テスト調査<sup>④</sup>で、各測定項目の平均値を得点化した合計点が全国平均値を上回った年齢は、小学校1年生(6歳)から高校3年生(17歳)までの24年齢(男女各12年齢)のうち、男子が3年齢(15歳、16歳、17歳)、女子は4年齢(6歳、7歳、16歳、17歳)の7年齢にとどまっています。(表2)

- ・測定項目別にみると、小学校・中学校男子は握力、高校男子は上体起こしなど6項目、小学校女子は握力など4項目、高校女子は上体起こしなど4項目で全国平均値を上回っているものの、全般的には全国平均値を下回る状況にあります。また、走(50m走)、跳(立ち幅とび)、投(ボール投げ)などの基礎的運動能力にかかる項目が劣る傾向にあります。

**表2 新体力テストの県平均値と全国平均値の比較**

(県平均値は平成21年度新体力テスト調査、全国平均値は20年度文部科学省体力・運動能力調査による。  
     全国平均を上回った項目、上段は県平均値・下段は全国平均値)

項目 \ 年齢	小学校						中学校			高校			
	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳	14歳	15歳	16歳	17歳	
男子	合計点	30.24	36.31	42.61	47.41	54.20	60.09	33.14	40.82	47.85	50.42	54.63	56.33
	(点)	30.35	38.02	43.56	49.88	54.98	61.29	34.49	43.00	49.88	50.21	54.04	55.69
	握力	9.83	11.21	13.17	15.09	17.05	20.62	25.32	30.76	36.13	38.60	40.98	42.45
	(kg)	9.56	11.28	13.06	14.99	17.15	20.13	24.66	30.10	35.46	39.29	42.07	43.26
	上体起こし	11.84	13.41	15.54	17.45	19.72	21.56	23.21	26.70	28.66	29.26	31.59	32.40
	(回)	11.23	13.78	15.64	17.64	19.37	21.60	23.96	27.50	29.49	29.03	31.15	31.65
	長座体前屈	24.87	26.51	27.80	29.75	32.20	33.77	39.10	42.53	46.00	49.06	52.14	53.21
	(cm)	26.38	27.45	29.06	30.28	32.47	34.49	39.39	43.15	46.79	47.71	49.36	51.11
	反復横とび	27.47	31.05	34.80	37.20	41.72	44.58	47.29	49.78	52.76	54.96	56.53	58.17
	(回)	26.98	31.26	34.59	38.78	42.43	45.43	48.37	51.78	54.62	54.00	55.65	56.51
	20mシャトルラン	17.92	25.85	33.47	38.19	50.09	59.11	66.63	80.09	86.88	84.37	92.59	90.77
	(回)	16.28	26.29	34.10	44.07	51.83	61.96	70.12	87.60	94.06	82.16	87.54	89.74
	持久走							449.71	421.00	400.53	406.95	393.90	401.82
	(秒)							421.47	391.52	367.71	380.70	375.57	372.35
	50m走	11.74	10.99	10.34	10.07	9.49	9.10	8.57	8.04	7.63	7.50	7.43	7.31
	(秒)	11.57	10.65	10.19	9.65	9.35	8.88	8.48	7.92	7.53	7.56	7.41	7.35
	立ち幅とび	110.55	121.46	132.53	139.72	151.75	163.93	177.04	194.49	207.66	216.97	224.68	227.65
	(cm)	115.56	127.67	137.44	147.12	154.54	166.79	180.72	196.76	211.42	218.13	223.50	226.38
	ボール投げ	8.99	12.48	16.95	21.26	26.02	30.70	18.08	21.06	23.68	24.09	25.14	25.49
	(m)	9.30	13.25	17.66	22.33	26.20	30.37	19.21	21.76	24.41	24.78	26.17	26.79
女子	合計点	30.10	37.09	43.29	48.61	55.67	60.57	42.01	47.14	48.43	47.57	50.75	51.40
	(点)	30.04	36.98	43.52	50.00	56.25	61.37	44.41	49.62	51.88	48.78	50.46	50.96
	握力	9.04	10.77	12.24	14.23	16.56	20.12	22.07	23.98	25.07	25.49	26.66	26.76
	(kg)	8.85	10.31	12.02	13.96	16.81	19.97	22.08	23.97	25.33	26.00	26.93	27.21
	上体起こし	10.94	12.98	14.65	16.69	18.50	19.34	19.32	22.17	22.62	22.70	24.25	25.31
	(回)	10.43	12.73	14.60	16.43	18.42	19.22	20.25	23.08	24.00	21.99	23.06	23.47
	長座体前屈	26.88	29.46	31.10	32.75	35.57	37.82	41.02	43.90	45.55	47.36	48.27	49.76
	(cm)	28.51	29.96	31.66	33.90	36.26	39.11	42.04	43.94	45.93	45.90	46.60	47.42
	反復横とび	26.69	29.83	33.83	36.02	40.26	42.48	42.70	43.80	43.92	44.77	47.05	47.15
	(回)	26.49	29.83	32.80	37.06	40.17	42.40	43.96	45.50	46.58	45.54	45.93	46.21
	20mシャトルラン	15.55	21.25	26.77	31.81	42.27	47.45	48.14	53.62	51.99	47.28	52.57	51.50
	(回)	14.50	20.01	26.68	33.26	41.57	47.66	51.18	59.60	59.35	46.62	49.64	50.02
	持久走							301.69	304.26	307.77	323.61	329.69	318.52
	(秒)							297.31	285.48	288.35	311.58	305.83	306.69
	50m走	11.95	11.12	10.58	10.10	9.60	9.35	9.10	8.91	8.85	9.21	9.01	9.00
	(秒)	11.89	11.08	10.38	9.93	9.54	9.23	9.03	8.78	8.72	8.98	8.99	8.99
	立ち幅とび	103.22	114.36	124.86	132.57	143.90	154.05	158.18	163.68	163.46	167.27	168.78	166.89
	(cm)	106.56	118.16	129.13	138.73	147.61	155.15	163.29	169.46	171.47	168.27	169.32	168.86
	ボール投げ	5.83	7.67	10.30	12.13	15.38	17.45	11.79	13.41	13.68	13.07	13.84	14.07
	(m)	5.91	7.73	10.22	12.50	15.24	17.87	12.76	13.99	14.71	14.38	15.03	14.99

○ボール投げ 小学生はソフトボール投げ、中高校生はハンドボール投げ。

## 2 子どものスポーツ活動について

- ・運動・スポーツの実施状況については、体育の授業以外にほとんど毎日（週3回以上）スポーツをする子どもの割合が、小学校4年生～6年生において全国平均値を大きく上回っています。（図1）
- ・運動部やスポーツクラブなどのスポーツ活動への加入状況については、小学校3年生以下が平均で9.0%、小学校4年生以上では平均57.0%となっています。また、中学生の運動部加入率は平均74.8%、高校生の運動部加入率は平均49.6%となっており、いずれも男子が女子より25%程度高い状況にあります。（表3）なお、運動部加入率は、中学生、高校生ともに、ここ数年変動はありません。

図1 運動・スポーツの実施状況の比較

「ほとんど毎日（週3回以上）スポーツする割合」（学校の体育の授業を除く）

（県平均値は平成21年度ライフスタイル調査、全国平均値は平成20年度文部科学省体力・運動能力調査による。）

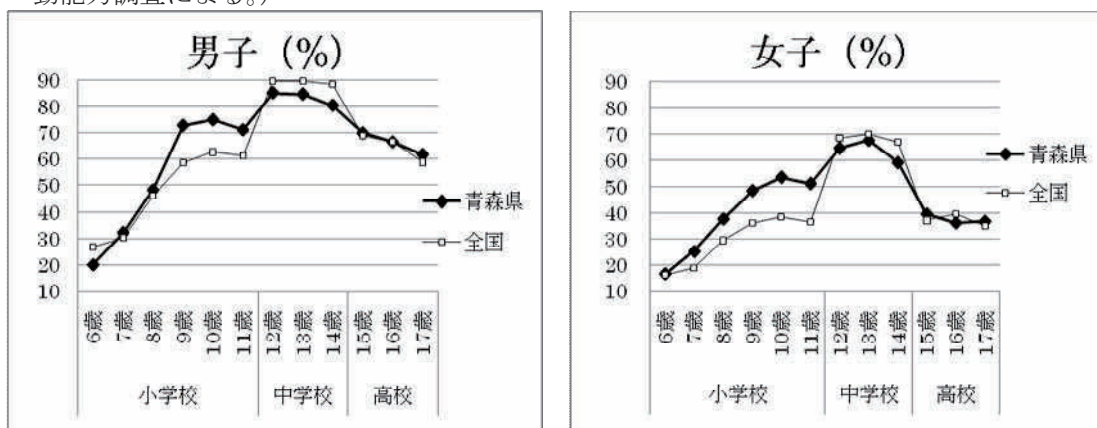


表3 スポーツ活動への加入状況

（平成21年度 県スポーツ健康課調査 ・小学校スポーツ活動調査 ・中学校運動部活動調査 ・高等学校運動部活動調査 による。）

	小学校 3年生以下	小学校 4年生以上	中学生	高校生
男子	11.1%	68.2%	86.8%	62.3%
女子	6.8%	45.6%	62.2%	36.8%
平均	9.0%	57.0%	74.8%	49.6%

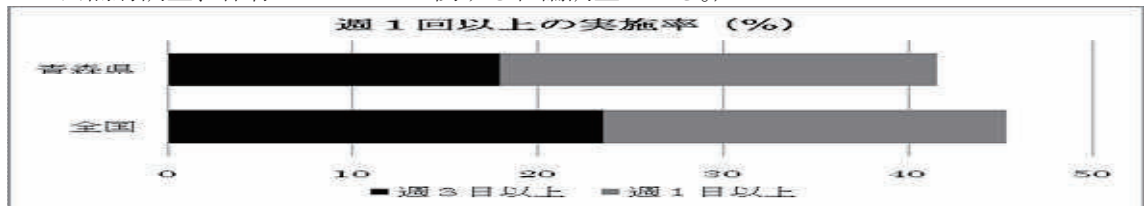
## 3 成人のスポーツ実施率について

- ・平成19年度の県民の健康・スポーツに関する意識調査<sup>⑤</sup>では、本県の成人のうち、週に1回以上スポーツを実施する人の割合（スポーツ実施率）は41.6%であり、国の目標値50%に届いていません。（図2）

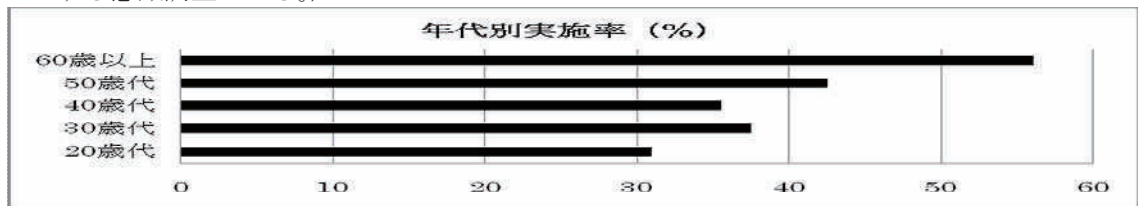
しかし、年齢が上がると実施率が高くなる傾向があり、60歳以上のスポーツ実施率は56.1%となっています。(図3)

- ・同調査で、「運動やスポーツをしにくいと感じたことがあるか」への問いに、「感じたことがない」と回答したのは23.1%であり、「スポーツをしにくいと感じた割合」が70%を超えています。また、運動やスポーツをしにくい理由を聞いたところ、「仕事などで忙しい」が38.2%と最も多く、以下、「機会がない」(29.5%)、「仲間がいない」(27.7%)、「金がかかる」(27.7%)、「場所や施設がない」(22.5%)などの順となっています。(図4)

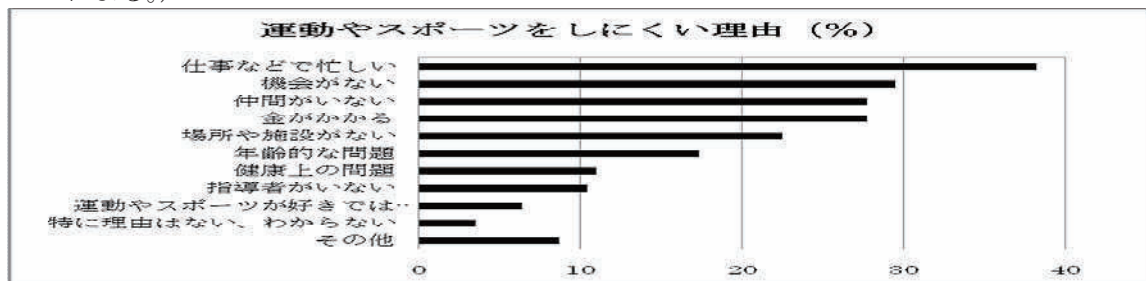
**図2** 成人のスポーツ実施率の県平均値と全国平均値の比較  
(県平均値は平成19年度県民の健康・スポーツに関する意識調査、全国平均値は平成21年度内閣府調査、体育・スポーツに関する世論調査による。)



**図3** 青森県の年代別の週1回以上スポーツ実施率 (数値は平成19年度県民の健康・スポーツに関する意識調査による。)



**図4** 運動やスポーツをしにくい理由 (数値は平成19年度県民の健康・スポーツに関する意識調査による。)



## 4 総合型地域スポーツクラブについて

- ・県内の総合型地域スポーツクラブ<sup>⑥</sup>の設置状況は、平成21年7月1日現在、40市町村中50%にあたる20市町村において、クラブが設立済み又は設立準備中となっています。(p30、資料1)

- ・総合型地域スポーツクラブの育成は、国のスポーツ振興基本計画における最重点施策となっていますが、本県においては、総合型地域スポーツクラブの意義などについて県民に十分浸透していない状況にあります。

## 5 体育指導委員について

- ・県内の体育指導委員<sup>⑦</sup>の人数は、平成21年7月現在602人であり、近年は、市町村合併の影響等により減少しています。
- ・平成19年度に県が市町村を対象に行った青森県スポーツ振興に関する調査<sup>⑧</sup>では、体育指導委員一人あたりの担当人口（市町村の人口を当該市町村の体育指導委員数で除した数値）は、最小で320人、最大で7,800人となっています。また、体育指導委員一人当たりの年間活動日数は平均10.9日であり、市町村別では、最大で51.1日、最小で1.4日と差がみられます。
- ・同調査では、体育指導委員一人当たりの年間活動日数を活動種別でみると、「会議への出席」（平均3.0日）、「スポーツ行事の運営補助」（平均2.6日）、「チームやクラブへの指導」（平均2.0日）が多くなっています。

## 6 スポーツ行事について

- ・平成19年度の「第20回全国スポーツ・レクリエーション祭」の本県開催を契機に、年齢や体力に関係なく、誰でも参加できるスポーツ・レクリエーションへの注目が一段と高まってきています。
- ・平成20年度には、これまでの「県民生涯スポーツフェスティバル」の内容の見直しを図るとともに、名称を改め、「第1回県民スポーツ・レクリエーション祭」として開催し、29種目に5,998名が参加しました。また、平成21年度の「第2回県民スポーツ・レクリエーション祭」では33種目に拡大し、7,688名が参加しました。
- ・平成20年度に、市町村が住民対象に実施した、スポーツ教室やスポーツ大会等のスポーツ行事は、計523事業であり、参加総数は107,899人でした。一市町村あたりの平均は約13事業となり、最も多い市では58事業を実施しています。
- ・住民運動会は21の市町村で、体力測定に関する事業は25の市町村で行われています。

## 7 市町村のスポーツ振興計画と施設開放状況

- ・平成 21 年 10 月現在、スポーツ振興計画を策定済みの市町村は 22 市町村となっています。このうち、当該計画を市町村総合計画の一部ではなく、スポーツ単独の計画として策定しているのは 3 市町です。（p 31、資料 2）
- ・平成 19 年度青森県スポーツ振興に関する調査では、県内小中学校体育施設の開放実績があるのは 30 市町村であり、体育館については、小学校 244 校（県内の 65.4%）、中学校 99 校（県内の 57.2%）において地域住民に開放されています。利用窓口としては、「市町村教育委員会」「学校」が全体の約 8 割を占めています。

## 8 選手の育成・強化について

- ・国民体育大会<sup>㊟</sup>での男女総合成績順位は、人口が多く大学や企業の数が多い都道府県が上位のほとんどを占め、本県は、平成 15 年（第 58 回）の得点算出方法改定以降 30 位前後で推移しています。（p 32、資料 3）なお、国民体育大会での獲得得点のうち、少年男女が全体の 6 割～7 割を占めています。（図 5）また、全国高等学校総合体育大会等で入賞する高校生が増え（図 6）、ジュニア競技者の活躍は本県の競技力を支えています。

図 5 国民体育大会での種別毎の獲得得点  
（数値は青森県体育協会資料による。参加点 400 点は除く。）

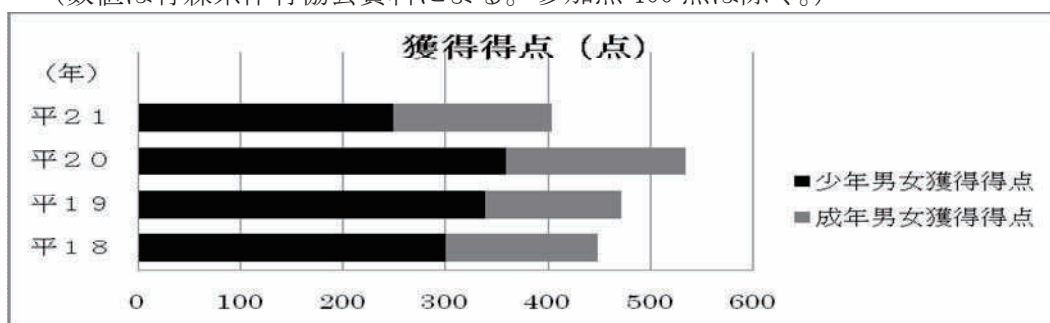
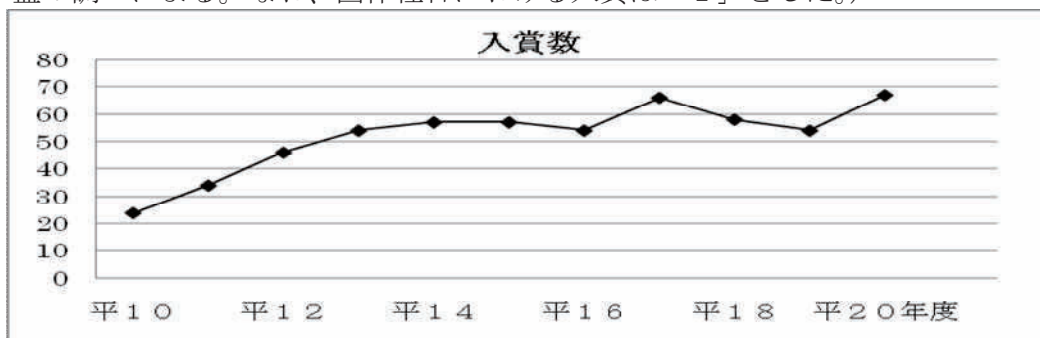


図 6 高等学校全国大会入賞者数（8 位以上の入賞者数。数値は、青森県高等学校体育連盟の調べによる。なお、団体種目における入賞は「1」とした。）



- ・平成 20 年度に県が行った競技人口調査<sup>⑩</sup>によると、3 年前に比べ、約半数の競技団体で競技人口が減少しています。（p 34、資料 4）
- ・学校教員の指導者の高齢化、中堅指導者の減少により、特に中学校では競技経験の浅い教員が指導にあたるケースが増えています。県教育委員会の運動部活動調査によると、平成 20 年度に運動部活動において活用された外部指導者の数は、中学校 623 名、高等学校 489 名となっています。

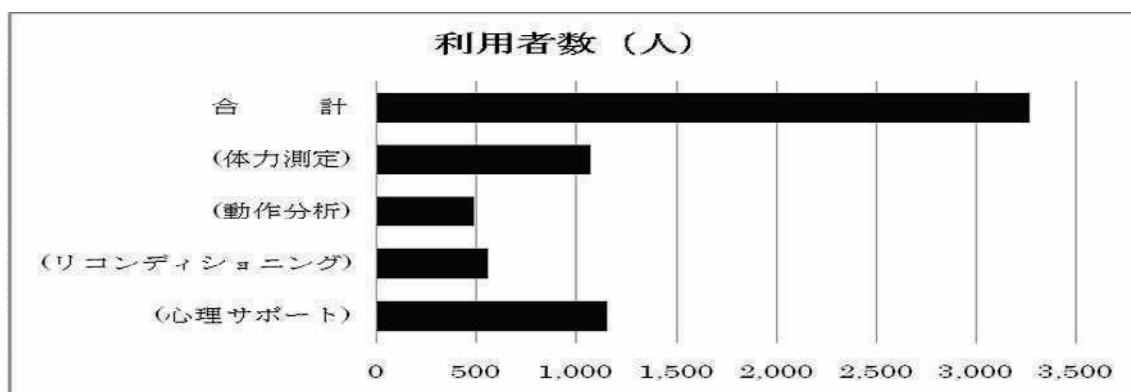
## 9 スポーツ科学の活用について

- ・平成 15 年に開所した青森県スポーツ科学センター<sup>⑩</sup>において、「体力測定」「動作分析」「リコンディショニング」「心理サポート」の各サービスが提供されています。（表 4）平成 19 年 4 月からは、各サービスにおいて「総合メニュー」だけでなく、特定の測定等を選択できる「個別メニュー」の利用ができるようになり、平成 20 年度は開所以来最も多い、3,269 名（実利用者数）に利用されました。（図 7）

**表 4** 青森県スポーツ科学センターにおいて提供されているサービス

サービス	メニュー	
体力測定	ア 基本検査	イ 全身持久力測定
	ウ 筋力測定	エ パワー測定
	オ 基礎体力測定	カ 身体組成測定
	キ 体力測定の結果に基づく運動プログラムの作成及び運動指導	
動作分析	ア 動作データ分析	イ フォーム撮影
	ウ 地面反力計測	エ 筋電図計測
リコンディショニング	ア コンディション評価	イ 運動プログラム作成
	ウ 運動指導	
心理サポート	ア 個別対応サポート	イ 集団対応サポート

**図 7** 平成 20 年度 青森県スポーツ科学センター利用者数（実人数）



- ・県内の多くの競技団体が、同センターを選手強化の目的で利用していますが、継続して利用している競技団体とそうでない競技団体がみられます。(表5)

**表5** 青森県スポーツ科学センターを利用した競技団体  
(平成19年度・20年度の利用実績)

年度	競技団体名	利用団体数
平成19年度	スキー・スケート・アイスホッケー・水泳・ボート セーリング(ヨット)・ボウリング・ゴルフ・陸上 競技・サッカー・テニス・バレーボール・バスケット ボール・レスリング・ウェイトリフティング・ハン ドボール・自転車競技・ソフトテニス・卓球・軟 式野球・相撲・馬術・柔道・ソフトボール・バドミ ントン・弓道・ライフル射撃・剣道・ラグビーフッ トボール・山岳(登山)・アーチェリー・銃剣道・ なぎなた・少林寺拳法	34
平成20年度	スキー・スケート・アイスホッケー・水泳・ボウリ ング・陸上競技・サッカー・アマチュアボクシング (ボクシング)・バレーボール・バスケットボール・ レスリング・ウェイトリフティング・ハンドボー ル・自転車競技・ソフトテニス・卓球・軟式野球・ 相撲・柔道・ソフトボール・バドミントン・弓道・ 剣道・ラグビーフットボール・山岳(登山)・アー チェリー・なぎなた・硬式野球	28

## 10 その他

- ・レスリングやフェンシングなど、全国規模の総合体育大会開催で会場となったことを契機に、指導者や施設等の活動体制が整い、市町村や地域に根づいている競技種目がいくつかあります。
- ・近年、地元企業等からの支援を受け、トップチームの強化と地域に根ざしたスポーツ振興に取り組む競技がみられます。

## 第3章 計画の目標

県民が生涯にわたり気軽にスポーツに親しむことができる環境づくりや、全国大会などで活躍できる選手の育成による本県の競技力の総合的な向上を進め、県民の豊かなスポーツライフの実現を目指します。

### 重点項目

#### 1 子どものスポーツ活動の推進

本県の子どもは、小学校高学年では活発に運動を行っており、高校生の体力水準は全国平均よりも高い傾向にあります。しかし、小学校低学年では運動をしない児童も多く、また、中学生の体力水準が全国平均を下回っているなど、年齢層によってばらつきが見られます。

近年、全国的に子どもの体力の低下傾向が続いており、その大きな原因として、子どもが体を動かす機会が減少しているという点が指摘されています。このような状況が今後も続くと、将来的に社会全体の活力低下につながる恐れがあることから、家庭、学校、地域が連携し、子どもが積極的に**スポーツに親しむ習慣や意欲を培っていく**必要があります。

以上のことから、市町村や関係団体等と連携し、子どものスポーツ活動を推進します。

#### 2 地域スポーツの推進

本県では、小学生のスポーツをする割合が全国平均を上回る一方、成人のスポーツ実施率は全国平均を下回っています。

子どもから高齢者まで広く県民がスポーツに親しむことは、各個人が活動することでの充足感を得るだけでなく、生活習慣病の予防など心身の健康の保持増進に資するものであり、ひいては社会全体の活力向上にもつながることが期待されます。

このため、スポーツに対する**県民の意識をさらに高めていく**とともに、誰もが気軽にスポーツ活動を行えるよう、行政や関係団体だけでなく、住民自らも**身近なスポーツ環境の整備**に主体的に取り組んでいく必要があります。

以上のことから、市町村や関係団体等と連携し、地域スポーツを推進します。

### 3 ジュニア競技者の育成・強化

国際大会や全国大会等で本県選手が活躍することは、県民のスポーツに対する関心を高め、地域の活性化が図られるなど、本県のスポーツ振興上大きな効果が期待され、これまでも、関係団体等と連携し各種強化事業等を実施してきました。

本県の競技力はジュニア選手の活躍によって下支えされていますが、本県の競技力を今後も維持・向上させるためには、引き続き、**幅広い底辺拡大策とジュニア選手に焦点を当てた強化策**を推進する必要があります。

以上のことから、関係団体等と連携し、ジュニア競技者の育成・強化に取り組みます。

## 第4章 スポーツ振興施策

県民の豊かなスポーツライフの実現

### 1 子どものスポーツ活動の推進

#### 【目標】

子どもが外遊びや運動・スポーツに親しむ環境が充実し、家庭、学校、地域における子どものスポーツ活動が活発になることを目指します。

#### 特に基盤となる取組

学校や地域等における指導者の育成

#### 重点的に推進する取組

- (1) 子どものスポーツ環境の充実
- (2) 外遊びやスポーツ活動の奨励

### 2 地域スポーツの推進

#### 【目標】

だれもが、いつでも、どこでも、スポーツに親しみ、生活の中でスポーツを継続的に実施できる環境が充実し、地域におけるスポーツ活動が活発になることを目指します。

#### 特に基盤となる取組

スポーツ活動の機会の充実

#### 重点的に推進する取組

- (1) 総合型地域スポーツクラブの育成
- (2) 地域のスポーツ活動を支える人材の育成

### 3 ジュニア競技者の育成・強化

#### 【目標】

各競技にジュニア層に重点を置いた一貫指導体制が整備され、全国大会等で活躍する選手が育成されるなど、本県の競技力が向上することを目指します。

#### 特に基盤となる取組

- (1) スポーツ科学の活用
- (2) 各競技の普及・振興

#### 重点的に推進する取組

育成強化システムの構築

# 1 子どものスポーツ活動の推進

**目 標** 子どもが外遊びや運動・スポーツに親しむ環境が充実し、家庭、学校、地域における子どものスポーツ活動が活発になることを目指します。

**達成目標** ほとんど毎日スポーツをする小学生の割合が55%となることを目指します。  
平成21年度現状値 青森県 46.0%（県ライフスタイル調査）  
全 国 38.4%（文部科学省体力・運動能力調査）

## 目標達成のために特に基盤となる取組

### 学校や地域等における指導者の育成

子どもの発達段階等に応じた指導が適切に進められるよう、学校や地域等における指導者を育成します。

青少年期に様々なスポーツに接することは、その後のスポーツライフを充実したものとする上で大変重要です。子どもは、学校や地域等のさまざまな活動において、指導者の力を借りながら、スポーツの楽しさを味わうとともに、それぞれの発達段階に応じ、スポーツの合理的・計画的な実践方法や、健康管理・生活安全・食習慣等について理解を深めていきます。このため、指導者研修会を開催するなど、学校や地域において、子どもの発達段階等に応じ、適切な指導のできる指導者の育成に努めます。

## 重点的に推進する取組

### (1) 子どものスポーツ環境の充実

学校と地域が連携し、指導者や活動場所を確保するなど、子どもの学校内外のスポーツ環境を充実させます。

#### 県の役割

#### 各地域における子どものスポーツ活動の推進体制構築への支援

「身近な場所で一緒にスポーツをする相手がない」「子どものスポーツを支えるべき

指導者が近くにいない」等の課題に対応し、今後、市町村の枠を越え、地域全体で子どものスポーツ活動を推進していく体制を整備する必要があります。このため、県内の各地域の関係者が、子どものスポーツ活動を推進するための広域的な連携・協働体制を構築できるよう支援を行います。

### **外部指導者の活用推進**

学校等における指導者の不足に対応するため、体育授業における教師の補助者や、運動部活動におけるコーチ等として、地域に住む専門的指導のできる人材による外部指導者の活用を推進します。

### **先進的取組の普及**

学校と地域が連携した先進的な取組事例を紹介し、各学校及び地域において、子どものスポーツ活動を活性化するための組織的な取組を促進します。

## **市町村・関係団体等の役割**

### **体育指導委員等による子どものスポーツ活動の推進（市町村、市町村体育指導委員協議会）**

市町村の体育指導委員等が、子どものスポーツ活動を積極的に推進することによって、より地域に密着したキメの細かい取組が期待されます。例えば、地域の子どもが集まり気軽に遊びやスポーツができる場づくりや仲間づくりを行う、「スポーツふれあい広場」の設置などが考えられます。

### **関係団体等の連携促進（市町村、スポーツ団体、学校等）**

子どもの多様なスポーツニーズに対応するためには、学校や地域のクラブ、スポーツ少年団等の関係者が連携し、指導者や施設などを有効活用しながら、子どもが体を動かす機会を確保していくことが望まれます。このため、市町村等が窓口となって、関係者による協議の場を設定するなど、連携した取組を促進することが期待されます。

### **地域クラブ等の連携による多項目型活動の展開（スポーツ団体）**

現在、地域のスポーツクラブの多くは競技種目ごとに運営されており、クラブ員は当該種目のみを行うのが通例です。しかし、少子化に対応し、子どものスポーツ活動をより豊かにしていくためには、例えば、スポーツクラブや団体が合同で活動を行い、子どもの興味・関心に応じ、複数の種目を楽しむことができるような取組が望まれます。また、この取組により、総合型地域スポーツクラブの創設に発展していく可能性も考えられます。

## (2) 外遊びやスポーツ活動の奨励

啓発活動の実施や運動プログラムの開発などにより、子どもの外遊びや運動・スポーツ活動を奨励します。

### 県の役割

#### 子どもの外遊びやスポーツ活動奨励のための啓発活動

子どもが積極的に体を動かし、自ら進んでスポーツ活動を行う意欲を喚起するため、県教委の広報誌やホームページで効果的な情報提供を行うなど、各種啓発活動を広域的に行います。

#### 発育・発達段階に対応した活動プログラムの開発

子どもが自ら進んで運動やスポーツ活動に取り組み、体力を向上させることができるよう、子どもの体力向上支援プログラムの開発を行います。

また、子どもの肥満化傾向の原因と対処方法を明らかにし、いつでもだれでもできる運動プログラムの開発を行います。

#### 「新体力テスト調査」の結果の普及啓発

子ども自身が自分の体力等の状況を把握し、効果的に体を動かすとともに、各学校や家庭において参考となるよう、毎年県が行っている「新体力テスト調査」の結果の普及啓発を図ります。

### 市町村・関係団体等の役割

#### 親子でスポーツの楽しさを体験する機会の提供（市町村）

幼児や小学校低学年においては、保護者等が子どもの遊びやスポーツ活動について正しい認識を持つことが大切です。このため、各市町村において、啓発活動を実施したり、親子スポーツ教室など、親と子が一緒になってスポーツの楽しさを体験する機会を提供するなどの取組が期待されます。

### **体を動かす楽しさを感じさせる取組の実施（保育所・幼稚園、学校等）**

子どもの成長過程の中で、特に神経系の発達が著しい幼児期、また運動能力が飛躍的に伸びる児童期においては、鬼ごっこ・木登りなどの外遊びや、体をバランス良く発達させるような多様なスポーツ活動を行う機会を増やすことが大変効果的であるとされています。このため、保育者や教師等には、保育活動・学校教育活動全体を通じ、子どもに体を動かす楽しさを感じさせ、運動やスポーツが好きになるような取組が求められます。

### **参加しやすく、スポーツへの動機付けを高める取組の実施（市町村、スポーツ団体等）**

市町村やスポーツ団体等においては、例えばトップアスリートと子どもが直接交流する事業など、子どもが気軽に参加しやすく、スポーツへの動機付けを高める取組が期待されます。

## 2 地域スポーツの推進

**目 標** だれもが、いつでも、どこでも、スポーツに親しみ、生活の中でスポーツを継続的に実施できる環境が充実し、地域におけるスポーツ活動が活発になることを目指します。

**達成目標** 成人の週1回以上のスポーツ実施率が50%となることを目指します。

平成19年度現状値	本県	41.6%	(県民意識調査)
平成21年度	全国	45.3%	(内閣府調査)

### 目標達成のために特に基盤となる取組

#### スポーツ活動の機会の充実

子どもから高齢者まで、多くの県民が参加できるよう、スポーツ活動の機会の充実に努めます。

地域スポーツの推進に向け、障害者を含み子どもから高齢者まで、また、初心者からトップレベルの選手まで、多くの県民がスポーツ活動に参加する機会を確保する必要があります。

このため、県では、「県民スポーツ・レクリエーション祭」や「県民体育大会」「県民駅伝競走大会」の開催などに取り組むほか、県民が主体的にスポーツ活動に取り組めるよう、スポーツ情報の効果的な提供を行います。

市町村においては、関係団体と連携し、年齢や体力に関係なく誰でも参加できる、各種スポーツ・レクリエーション大会を開催するなどの取組のほか、地域住民の活動の場を確保するため、学校体育施設の開放を促進することが望まれます。また、広報紙やホームページなどを活用し、地域に密着したスポーツ情報を提供することが望まれます。

## 重点的に推進する取組

### (1) 総合型地域スポーツクラブの育成

県民の主体的なスポーツ活動を推進するための地域の活動拠点として、地域住民によって運営される総合型地域スポーツクラブを県内各地に育成します。

#### 県の役割

##### 青森県広域スポーツセンターによる総合的な支援

「総合型地域スポーツクラブ」(以下、「総合型クラブ」)は、地域住民が主体的に運営する形態のスポーツクラブであり、その創設・運営にあたっては、総合型クラブの核となる熱意と能力のある人材を確保するとともに、それぞれの地域が抱える課題に適切に対応していく必要があります。

これまで、県では平成19年度に「青森県広域スポーツセンター」を設置し、総合型クラブの創設・運営に対し総合的な支援を行ってきました。今後も引き続き、次のような支援を行います。

##### ア 総合型クラブの創設・運営ノウハウの提供

県内においてこれから総合型クラブ創設を検討している市町村には、様々な課題や不安要素を抱えている関係者が多く見受けられます。このため、直接これらの地域を訪問するなどして、「人材」「財源」「施設」等の資源確保のための方策、関係団体との連携方法など、具体的な情報やノウハウを提供します。

##### イ 総合型クラブの創設・運営研修会等の開催

設立済み総合型クラブの関係者が講師となって講義や演習を行うなど、クラブ運営の実務能力を身につけることをねらいとした研修会等を開催します。

##### ウ 総合型クラブに関する普及啓発活動

広く地域住民に対し、総合型クラブの意義や必要性を理解してもらうための働きかけを行います。中でも、自らのスポーツ活動のための環境を地域で主体的に創り出すことについて、理解を促進します。

## エ 総合型クラブ間のネットワーク形成に向けた支援

県内の総合型クラブ同士が連携を深めることにより、相乗効果が生まれ、さらに円滑で自立したクラブ運営が促進されることが期待されます。このため、総合型クラブ間のネットワーク形成に向けて支援を行います。

## 市町村・関係団体等の役割

### 総合型クラブ育成を盛り込んだ市町村スポーツ振興計画の策定・改定（市町村）

各市町村には、国の「スポーツ振興基本計画」を踏まえ、自らのスポーツ振興計画の中に総合型クラブ育成を位置づけ、計画的に推進していくことが求められています。

### 総合型クラブ育成の推進（市町村）

総合型クラブの設立形態には、行政主導型、住民主導型、既存団体連携型など様々なタイプが考えられますが、地域のスポーツ環境を整備するという趣旨から、市町村（スポーツ行政）が総合型クラブ育成に対し積極的に関与し支援していくことが期待されます。

具体的には、クラブ運営の核となる人材の発掘・育成、公共施設の利用促進、関係団体等の連絡調整、住民への広報活動などが考えられます。

### 総合型クラブ運営への支援（スポーツ団体、大学等）

総合型クラブは、いろいろなスポーツを参加者のレベル等に応じて楽しむことを目標としているため、指導者については実施種目数に応じた人数を確保する必要があります。このため、地域の体育協会、レクリエーション協会及び体育指導委員協議会等が、スポーツ指導者の派遣や、事業の運営協力など、クラブ運営に対して支援することが期待されます。

また、大学等においては、施設や人材等の豊富な資源を有していることから、地域の一員として地域スポーツ振興に積極的に関わり、総合型クラブ育成の支援をしていくことが期待されます。

### 学校と総合型クラブの連携（学校、総合型クラブ）

運動部活動においては、少子化等により、団体競技を中心に継続が困難となったり、専門的な指導者が不足するなどの課題があり、その解決策の一つとして、学校が総合型クラブから支援を受けることは有効な手段です。このように、学校と総合型クラブが連携することにより、それぞれの活動がより活性化することが期待されます。

## (2) 地域のスポーツ活動を支える人材の育成

住民のニーズを踏まえ、地域のスポーツ活動を推進していくことのできる多様な人材を育成します。

### 県の役割

#### 指導者研修会の充実

スポーツ指導者には、日本体育協会や日本レクリエーション協会等が実施する指導者養成事業により認定された公認スポーツ指導者のほか、市町村が委嘱する体育指導委員、県内のスポーツ団体や県・市町村が育成する指導者、県・市町村スポーツ施設に配置される専門指導員などがいます。

県は、これまでも体育指導委員や生涯スポーツ指導者等を対象に研修会を開催してきましたが、今後、実施形態や研修内容をさらに工夫し一層の充実を図ります。

また、特に人口の少ない町村等においては人材不足が深刻な状況にあることを踏まえ、市町村等との連携のもと、指導者が市町村の枠を越えて広域的に活動できるような体制づくりに努めます。

#### 関係団体等との連携による人材の活用策の検討

スポーツ団体等では独自に指導者や審判員等の養成を行っています。

しかし、近年のニーズの多様化により、地域スポーツを推進する上で必要とされる人材は「スポーツ技術を向上させてくれる指導者」にとどまらず、「スポーツを気軽に楽しみたい人に対応できる指導者」「健康増進を目的にスポーツを行いたい人に対応できる指導者」「スポーツボランティア」等、多岐にわたっており、指導を受ける側のニーズに十分対応しきれていない面があります。

このように、多様なニーズに対応した人材を確保し、適切な活用を図るためには、県・市町村、関係団体等それぞれによる取組とともに、相互の連携が不可欠であり、今後、効果的な人材の活用策等について検討します。

### 市町村・関係団体等の役割

#### 体育指導委員活動の活性化（市町村、市町村体育指導委員協議会）

体育指導委員は地域の状況に精通しており、これまでも地域のスポーツ振興の担い手として位置づけられてきました。今後、体育指導委員の活動のさらなる活性化に向けて、次のような取組が期待されます。

#### ア 選任方法等の工夫

体育指導委員の選任については、多様な人材を確保するため、若手・女性を積極的に選任したり、公募制を導入することなどが効果的です。また、年齢や任期の制限を設けるなどの工夫も考えられます。

#### イ 広報活動の充実

広報活動により、事業等への住民参加を促すとともに、体育指導委員の任務や活動状況を伝え、その存在をアピールすることは、体育指導委員の活動を活性化の上で有効な手段であると考えられます。

#### ウ 市町村体育指導委員協議会による計画的・組織的取組

地域のスポーツ活動を活発に推進していくためには、住民のニーズを把握し、組織的かつ重層的に事業展開していくことが必要です。このため、市町村体育指導委員協議会の中に「事業」「研修」「広報」などの委員会を設け、各体育指導委員が関わりを持ちながら、年間を通して組織的・計画的に活動を重ねていくことが期待されます。

### 人材の発掘・育成（スポーツ団体、市町村等）

スポーツニーズの多様化により、指導対象は子どもから高齢者、障害者など広範囲にわたっており、また、業務内容も、実技指導からクラブ等のマネージメント、スポーツイベントの運営支援など広がりを見せております。特に、総合型地域スポーツクラブを運営する際は、各種の調整業務を行う人（クラブマネージャー）や運営協力者の存在が必要不可欠です。

これらに対応した人材を確保するためには、例えば、選手としての競技経験を持つ人、教師やPTAなど子どもに関わった経験を持つ人、地域活動やボランティア活動に熱心な人、保健・医療関係者、健康・スポーツを学ぶ大学生など、各種の経験や資質を備えた人材を発掘し育成していく必要があります。

このため、スポーツ団体や市町村等は、日頃から人材情報の収集に努めるとともに、広報紙やインターネット等を活用して協力者を募集するなど、積極的な働きかけを行うことが期待されます。

### 3 ジュニア競技者の育成・強化

**目 標** 各競技に、ジュニア層に重点を置いた一貫指導体制が整備され、全国大会等で活躍する選手が育成されるなど、本県の競技力が向上することを目指します。

**達成目標** ・国民体育大会と全国高校総体を合わせた本県選手の入賞数が155になることを目指します。平成20年度現状値135（国体76、全国高校総体59）  
・中学校と高等学校の一貫指導体制を確立します。（高校生の全国大会開催種目40競技）

#### 目標達成のために特に基盤となる取組

##### （1）スポーツ科学の活用

競技力向上ならびに指導者の指導力向上を図るため、スポーツ科学の活用を促進します。

青森県スポーツ科学センターでは、競技者の体力・動作・リコンディショニング・心理の各分野にわたる「測定・分析・評価」及びその結果にもとづいた「トレーニング指導」、医師等による「メディカルチェック」や「スポーツ医事相談」、「栄養相談」を行っています。

また、高等学校運動部に専門職員を派遣し、スポーツ科学にもとづいた通年支援を行いながら、ジュニア競技者の特性に応じた効果的なトレーニング方法や指導方法の開発を行っています。

今後は、より多くの競技者や指導者が支援を受けられるための仕組みづくりとして、県内のスポーツ・健康関連学科を設置する大学等との連携によるスポーツ科学支援体制の整備に向けた検討を進めます。

##### （2）各競技の普及・振興

各競技の普及と競技人口の拡大を図ります。

スポーツ団体は、市町村や学校等と連携し、スポーツ教室や講習会・セミナー等の開催、運動部活動や地域クラブへの指導者派遣、トップアスリート等を活用した競技普及

など、多様な取組を展開する必要があります。また、市町村においては、これまで地域に根付いている競技を振興し、地域の活性化を図っていくことが期待されます。

競技の普及・振興を図る上で各種競技会を開催することは大変効果的であり、スポーツ団体や市町村においては、参加対象、開催地域、競技形式等を工夫し、競技者の励みになり、日常の練習活動を促進するような競技会を開催することが期待されます。

競技会のなかでも、特に、国民体育大会等の大規模大会の本県開催は、県全体の競技力の向上をはじめ、地域の活性化、各種基盤整備など、本県のスポーツ振興にとって大きな効果が期待できます。平成 23 年度の全国高等学校総合体育大会の本県開催に向けた諸準備、各競技の選手強化、大会を支援する「高校生一人一役活動」などの取組についても、今後のスポーツ振興に活かされることが期待されます。

県では、県民のスポーツに対する興味・関心を高め、競技者の意欲を喚起することをねらいとして、「オリンピック等における本県選手の活躍」「各競技の青森県記録」等の情報を整備し、県のホームページを通して提供します。

また、県内競技団体においても、中央競技団体等と連携し、種目の魅力紹介や大会・研修会の情報提供などを行い、各競技の普及と競技人口の拡大に努めることが期待されます。

## 重点的に推進する取組

### 育成強化システムの構築

競技団体、地域、学校、行政等の連携により、「競技者育成プログラム」を県内のスポーツ関係者へ普及し、各競技種目における一貫指導体制による育成強化システムを構築します。

### 県の役割

#### 競技者育成プログラムの普及

ジュニア層に重点を置いた育成・強化を推進するためには、関係者が一貫した指導理念に基づき、各学校段階を通じて適切な指導を継続的に行うことが重要です。各競技の中央競技団体では、競技の特性や発達段階に応じ選手を組織的・計画的に育成することをねらいに「競技者育成プログラム」を作成しています。このため、競技団体等との連携により、同プログラムを普及し、ジュニア競技者の育成を推進します。

## 競技団体による強化体制構築への支援

競技者育成プログラムによる指導が円滑に行われるためには、競技団体、地域、学校、行政等による十分な連携が必要です。このため、県体育協会と連携し、強化にかかわる関係者による協議会や研修会を開催するなど、競技団体における強化体制の構築に向けた支援を行います。

## 運動部活動指導者の養成・確保

ジュニア競技者の育成・強化を進める上で、日常のトレーニングを行う場である中学校や高等学校における運動部活動指導者の指導力を高めることは大変重要です。このため、運動部活動に関わる地域の指導者や教員等を対象とし、指導力向上をねらいとした研修会を開催します。また、運動部活動を活性化するとともに、生徒の個を生かし、競技力の向上を図れるような優秀な指導者の確保に努めます。

## 選手強化事業への支援

各競技団体においては、県内外で強化合宿や練習会を実施するなど、それぞれの競技特性に応じた実施方法による強化事業を展開しています。県は、国民体育大会の青森県代表選手等、本県競技力の中核を担う選手及び指導者を対象に、強化事業への支援を行います。

## 関係団体等の役割

### 強化体制の構築（スポーツ団体）

地域や各学校段階の枠を越えた一貫指導を行うためには、競技団体や中学校体育連盟、高等学校体育連盟などの関係団体がそれぞれ個別に事業を展開するのではなく、競技種目ごとに競技団体、小学校、中学校、高等学校及び地域の各関係者が参画した強化体制を構築し、相互に連携した事業を推進する必要があります。また、各年代やレベルごと、あるいは地域ごとの指導スタッフを組織化し、選手の発掘－育成－強化を円滑に行うことが望まれます。

なお、平成 23 年度に青森県、岩手県、秋田県の北東北三県及び宮城県において開催される全国高等学校総合体育大会に向けて、平成 18 年度から、中学校体育連盟と高等学校体育連盟の指導者が連携し強化に取り組んでいます。今後は、この取組を契機に強固な強化体制を確立することが望まれます。

### **本県版指導プログラムの作成（スポーツ団体）**

各競技の中央競技団体が作成する競技者育成プログラムは、国際的な競技者育成の動向を踏まえ、トップレベルの競技者を育成するための指導理念や指導内容等を明確化したものです。しかし、都道府県競技団体においては、競技者育成プログラムが十分に活用されていない、あるいは認知されていないという課題があります。

県内のスポーツ団体は、上記の強化体制の中で、競技者育成プログラムを関係者間で共有し、浸透させるとともに、実際の指導場面で活用できるよう、本県向けの詳細な指導プログラム（本県版指導プログラム）を作成することが望まれます。

### **指導者の育成、研修機会の確保（スポーツ団体）**

一貫指導を円滑に進めるためには、計画的な指導者育成が不可欠であり、各年代やレベルに応じた指導者を育成できるよう、積極的に研修の機会を確保することが求められます。

なお、日本体育協会では、指導する場所や対象、競技レベル等に応じ、競技別指導者として「指導員」「上級指導員」「コーチ」「上級コーチ」などの養成・資格認定を行っており（公認スポーツ指導者制度）、この制度を積極的に活用し、多様なニーズに的確に対応できる指導者の育成に努めることが望まれます。

### **有望選手の発掘・育成（スポーツ団体）**

有望選手を発掘・育成することは選手強化にとって極めて重要な要素であり、現在、日本オリンピック委員会（JOC）や国立スポーツ科学センター（JISS）等を中心に、競技特性を踏まえた客観的な指標に基づき、優れた素質を有する競技者を発掘する手法の研究開発が実施されています。

スポーツ団体においては、これらの研究成果等を踏まえながら、有望選手の発掘・育成方法を検討していくことが望まれます。

## 《参考資料》

### 用語解説

#### ① スポーツ

- ・「スポーツ」とは、運動競技及び身体運動（キャンプ活動その他の野外活動を含む。）であって、心身の健全な発達を図るためにされるものをいう。

（スポーツ振興法第2条）

#### ※スポーツ振興法

- ・1961年（昭和36年）、我が国のスポーツ振興の基本的な法律として制定された。全23条からなり、スポーツの定義、行政計画の策定、施設整備、指導者養成、国民体育大会や各種競技会の開催など、スポーツ振興に必要な関連領域を網羅している。

#### ② スポーツ振興基本計画

- ・「スポーツ振興法」に基づき、長期的・総合的視点から国が目指すスポーツ振興の基本的方向を示すものとして策定され、平成18年9月に改定された。

（p36参照）

#### ③ 青森県学校保健調査

- ・学校保健安全法（旧学校保健法）により、毎年定期に行われている健康診断に基づき、児童生徒の発育及び発達状態を明らかにする調査。小学校・中学校・高等学校の全児童生徒を対象とする。ただし、高等学校の生徒のうち、全日制課程及び定時制課程に在籍する満18歳以上の生徒等及び通信制課程の生徒は除く。

#### ④ 新体力テスト調査

- ・青森県が実施している「体格、体力、ライフスタイル調査」の中で、小学校、中学校、高等学校の男女児童生徒を対象に、文部科学省で示す「新体力テスト実施要項」により実施している体力調査。

- ・平成21年度標本数

小学生（1年～6年） 9,137名

中学生（1年～3年） 7,760名

高校生（1年～3年） 5,523名

- ・新体力テストの種目

（握力・上体起こし・長座体前屈・反復横とび・持久走（12歳以上選択）  
20mシャトルラン（11歳以下必実施、12歳以上選択）・50m走・立ち幅とび  
ボール投げ）

- ・ライフスタイル調査の内容

〔運動部やスポーツクラブへの所属状況、運動・スポーツの実施状況、1日の運動・スポーツ実施時間、朝食の有無、1日の睡眠時間、1日のテレビ視聴時間〕

⑤ 県民の健康・スポーツに関する意識調査

- ・平成19年8月、県政モニターを対象に、健康やスポーツに対する意識と意見に関する調査。20歳以上男女173人から回答。

※内閣府調査

- ・3年に一度実施される、体力・スポーツに関する世論調査。平成21年の調査では、全国の20歳以上男女1,925人（1県平均40.9人）から回答。

⑥ 総合型地域スポーツクラブ

- ・地域住民によって自主的・主体的に運営されるスポーツクラブである。
- ・子どもから大人まで（多世代）、様々なスポーツを愛好する人が（多種目）、初心者からトップレベルまでそれぞれの趣向・レベルに合わせて参加できる（多志向）という特徴を持つ。

⑦ 体育指導委員

- ・市町村の教育委員会が委嘱し、市町村におけるスポーツ振興のため、住民に対しスポーツの実技の指導その他スポーツに関する指導及び助言を行う。（スポーツ振興法第19条）

⑧ 青森県スポーツ振興に関する調査

- ・県内40市町村を対象に、各市町村におけるスポーツ振興の実態を把握し、今後の本県のスポーツ振興に必要な基礎資料を得ることを目的に青森県教育委員会が行っている調査。

⑨ 国民体育大会

- ・昭和21年に京阪神地方で第1回大会開催。昭和36年からは、国のスポーツ振興法に定める重要行事として、主催を（財）日本体育協会、文部科学省、開催地都道府県とし、各競技会は日体協加盟競技団体及び会場地市町村を含めたものとして、本大会は、毎年各県持ち回りで開催されている。
- ・正式種目の順位を得点に置き換えて争い、本大会及び冬季大会の通算で男女総合成績第1位の都道府県に「天皇杯」が、女子総合成績第1位の都道府県に「皇后杯」が授与される。
- ・日本体育協会による、国体改革2003に掲げられた「大会の簡素・効率化」により「大会規模の適正化」が全競技で実施されている。平成21年、第64回大

会は、正式種目 40 競技（本大会 37 競技、冬季 3 競技）が行われている。

⑩ 競技人口調査

- ・（財）青森県体育協会に加盟する 57 競技団体（中学校体育連盟・高等学校体育連盟を除く）の平成 20 年度の競技人口を調査。小学生、中学生、高校生、大学生、一般の登録選手数の他、一部競技においては登録外の競技人口を含めている。

⑪ 青森県スポーツ科学センター

- ・スポーツ科学を活用した競技力向上等を目的に、平成 15 年 7 月に青森市宮田地区の新総合運動公園内に開設された。
- ・「体力測定」－専門的な測定機器を用い、身体機能や運動能力を測定し、評価する。また、測定結果に基づき、利用者の体力及びトレーニングに関する情報を提供する。
- ・「動作分析」－スポーツの様々な場面で発生する動きをバイオメカニクスの手法を使って分析し、動きの向上・改善のヒントを提供する。
- ・「リコンディショニング」－スポーツ傷害による競技者の競技復帰までのアスレチック・リハビリテーションを実施する。個人の競技レベルやトレーニング環境に合わせたプログラムの提供、及び受傷部位へのケアや、低下した運動機能を回復するためのトレーニングの指導などを通して、競技力向上に向けた支援を行う。
- ・「心理サポート」－競技スポーツ選手やスポーツ愛好家、及びスポーツチーム（集団）がより充実した競技生活を送っていき、より望む姿（チーム状況）に近づいていくことを、スポーツ心理学に基づいて心理面からサポートする。

⑫ 地域に根ざしたスポーツ振興に取り組む競技（青森市・カーリングの例）

- ・平成 14 年「青森市スポーツ会館」に専用カーリング場を整備し、平成 15 年「第 5 回アジア冬季競技大会 青森 2003」カーリング競技の他、各種大会を開催。その後、青森市スポーツ会館は日本オリンピック委員会（JOC）のカーリング競技強化センターに認定された。「カーリングの街」を目指し、市内小・中学生対象にカーリング普及事業及び各種大会を実施している。

## 資料1 総合型地域スポーツクラブ設立状況

平成21年7月1日現在

### 創設済み

	市町村名	クラブ名	発足年
1	青森市	青森総合スポーツクラブ	H.14
		Willスポーツクラブ	H.20
		総合型地域スポーツクラブ CLUB Salute	H.21
2	弘前市	NPO法人リベロ津軽スポーツクラブ	H.18
		NPO法人スポネット弘前	H.19
3	八戸市	ヴァンラーレ八戸スポーツクラブ	H.20
		ウィンズスポーツクラブ	H.21
4	黒石市	NPO法人くろいしアスリートアンドエンジョイクラブ	H.15
5	つがる市	いながきスポーツクラブ	H.11
6	むつ市	むつアスリートクラブ	H.21
7	外ヶ浜町	東津軽郡スポーツクラブ	H.17
8	大間町	大間町総合型地域スポーツクラブ	H.15
9	五戸町	五戸町スポーツクラブ	H.11

### 創設準備期

	市町村名	準備組織名	発足年
1	三沢市	スポーツクラブみさわ設立準備委員会	H.20
2	平川市	ひらかわスポーツクラブ設立準備委員会	H.20
3	つがる市	車力楽笑スポーツクラブ設立準備会	H.20
4	鱒ヶ沢町	鱒ヶ沢町総合型地域スポーツクラブ設立準備委員会	H.20
5	鶴田町	鶴田町スポーツクラブ	H.16
6	深浦町	深浦町スポーツクラブ	H.20
7	田子町	田子町総合型地域スポーツクラブ設立準備委員会	H.21
8	階上町	はしかみ総合スポーツクラブ設立準備委員会	H.20
9	板柳町	りんごの里総合型地域スポーツクラブ準備委員会	H.21
10	六ヶ所村	ひばりさわやかスポーツクラブ設立準備委員会	H.20
11	新郷村	三ッ岳スポーツクラブ設立準備委員会	H.21
12	東通村	東通村総合型地域スポーツクラブ設立準備委員会	H.21

## 資料2 市町村スポーツ振興計画策定状況

平成21年10月現在

市町村名	振興計画 有無	振興計画がある場合				振興計画の内容・表記	今後の策定予定	
		独自計画	他計画内	計画期間	名称・位置づけ		有無	予定
1 青森市	○	●		H19～H22	青森市スポーツ振興計画	青森市総合計画の部門別計画	-	-
2 弘前市	○		○	H20～H27	弘前市総合計画	スポーツレクリエーションの振興	-	-
3 八戸市	○		○	H20～H24	八戸市教育プラン後期基本計画・実施計画	生き生きとしたスポーツライフの実現	-	-
4 黒石市	×	-	-	-			×	
5 五所川原市	○		○	H19～H22	五所川原市総合計画	スポーツの振興	×	
6 十和田市	×	-	-	-			○	H22
7 三沢市	○		○	H20～H29	三沢市総合計画・前期5年間	スポーツの振興	-	-
8 むつ市	○		○	H19～H28	むつ市長期総合計画・前期～H23	教育の充実、スポーツ・レクリエーション活動の充実	×	
9 つがる市	○		○	H18～H27	つがる市総合計画	生涯学習・生涯スポーツ活動の推進	-	-
10 平川市	○		○	H19～H28	平川市長期総合プラン	元気はつらつ生涯スポーツの推進	○	H23
11 平内町	×	-	-	-			×	
12 今別町	×	-	-	-			×	
13 蓬田村	×	-	-	-			×	
14 外ヶ浜町	○	●		H19～H23	外ヶ浜町生涯スポーツ振興計画	外ヶ浜町総合計画との整合性を図る	-	-
15 鱒ヶ沢町	○		○	H13～H22	第4次鱒ヶ沢町長期総合計画	地域に根ざした生涯スポーツの推進	-	-
16 深浦町	○		○	H120～H24	中期社会教育計画	生涯スポーツの振興	-	-
17 西目屋村	×	-	-	-			×	
18 藤崎町	○		○	H19～H28	藤崎町総合計画	生涯スポーツの推進	-	-
19 大鰐町	○		○	H14～H24	第4次大鰐町総合振興計画	生涯スポーツの振興	×	
20 田舎館村	×	-	-	-			×	
21 板柳町	×	-	-	-			○	H22
22 鶴田町	×	-	-	-			×	
23 中泊町	○		○	H18～H27	中泊町長期総合計画	スポーツ活動機会の拡充	×	
24 野辺地町	×	-	-	-			×	
25 七戸町	×	-	-	-			×	
26 六戸町	○		○	H11～H20	第3次六戸町総合振興計画	スポーツ活動の振興	-	-
27 横浜町	×	-	-	-			×	
28 東北町	○		○	H18～H27	2015東北町総合振興計画	スポーツの振興	-	-
29 六ヶ所村	○		○	H18～H27	六ヶ所村第3次総合振興計画	各種スポーツの振興	○	H21
30 おいらせ町	○	●		H19～H28	おいらせ町スポーツ振興計画	新町建設計画に対応した具体的内容を示すもの	-	-
31 大間町	○		○	○	第4次大間町総合計画 ※不確か		-	-
32 東通村	×	-	-	-			×	
33 風間浦村	×	-	-	-			×	
34 佐井村	×	-	-	-			×	
35 三戸町	×	-	-	-			×	
36 五戸町	○		○	H17～H26	新五戸町総合振興計画	スポーツの振興	×	
37 田子町	○		○	H18～H27	第5次田子町総合計画	自ら楽しめるスポーツと芸術文化の輪を広げる	-	-
38 南部町	×	-	-	-			×	
39 階上町	○		○	H17～H21	第3次階上町総合振興計画(概要)	スポーツ・レクリエーション活動の振興	×	
40 新郷村	×	-	-	-			×	
合計	22		19				4	

資料3 国民体育大会における天皇杯順位・得点の推移（第58回～64回大会）

順位	第58回(平成15年)			第59回(平成16年)			第60回(平成17年)			第61回(平成18年)						
1位	静岡	58	○	2696.50	埼玉	59	○	3742.00	岡山	60		3742.00	兵庫	61	○	3179.00
2位	埼玉	59	○	2365.00	東京		○	1897.50	東京		○	1897.50	埼玉	59	○	2084.00
3位	東京		○	2203.00	神奈川		○	1823.00	埼玉	59	○	1823.00	愛知		○	1750.00
4位	愛知		○	1970.50	愛知		○	1607.00	愛知		○	1607.00	大阪		○	1725.50
5位	大阪	56	○	1649.00	北海道		○	1601.00	大阪		○	1601.00	東京		○	1724.50
6位	北海道		○	1555.50	大阪		○	1598.00	京都		○	1598.00	神奈川		○	1685.00
7位	神奈川		○	1546.50	岡山	60		1515.50	北海道		○	1515.50	北海道		○	1504.00
8位	京都		○	1508.00	宮城	56		1481.50	兵庫	61	○	1481.50	京都		○	1394.50
9位	福岡		○	1344.50	熊本			1433.00	広島		○	1433.00	千葉		○	1373.00
10位	宮城	56		1344.00	千葉		○	1355.00	神奈川		○	1355.00	秋田	62		1330.00
11位	熊本			1335.50	京都		○	1296.00	宮城			1296.00	岡山	60		1320.00
12位	兵庫	61	○	1289.00	兵庫	61	○	1262.00	千葉		○	1262.00	熊本			1313.00
13位	岡山	60		1271.50	静岡	58	○	1255.00	熊本			1255.00	広島		○	1291.00
14位	群馬			1262.50	福岡		○	1238.50	福岡		○	1238.50	福岡		○	1238.50
15位	千葉		○	1242.00	広島		○	1099.50	香川			1099.50	群馬			1217.00
16位	長野			1234.00	長崎			1077.50	群馬			1077.50	大分	63		1161.50
17位	広島		○	1199.00	群馬			1073.50	富山			1073.50	宮城			1124.00
18位	富山	55		1155.50	岐阜	55		1042.00	長野			1042.00	岐阜			1098.00
19位	大分			1132.00	大分			1033.50	静岡	58	○	1033.50	長野			1076.50
20位	岐阜			1060.00	香川			996.00	大分	63		996.00	香川			970.50
21位	香川			1016.00	福島			993.50	福島			993.50	静岡	58	○	964.00
22位	茨城		○	1001.50	山梨			979.50	岐阜			979.50	山形			959.00
23位	福島			954.00	茨城		○	978.50	秋田	62		978.50	石川			939.00
24位	秋田			908.50	山形			966.00	福井			966.00	富山			935.00
25位	長崎			897.00	石川			947.50	長崎			947.50	奈良			931.00
26位	石川			890.00	長野			946.50	鹿児島			946.50	福島			900.50
27位	青森			882.50	青森			932.50	茨城		○	932.50	栃木			872.50
28位	山梨			874.00	栃木			928.50	山梨			928.50	山梨			863.00
29位	奈良			872.00	富山			904.00	石川			904.00	鹿児島			857.50
30位	高知	57		862.00	愛媛			894.50	山形			894.50	新潟	64		850.00
31位	愛媛			836.50	鹿児島			891.50	新潟			891.50	青森			848.50
32位	新潟			832.50	滋賀			874.50	奈良			874.50	佐賀			839.50
33位	滋賀			823.00	秋田	62		873.00	滋賀			873.00	福井			834.50
34位	山形			805.00	福井			860.50	青森			860.50	岩手			813.50
35位	宮崎			767.50	新潟			840.50	愛媛			840.50	三重			813.00
36位	福井			758.00	沖縄			819.00	三重			819.00	滋賀			797.50
37位	岩手			747.00	奈良			817.00	佐賀			817.00	長崎			796.50
38位	佐賀			743.50	高知	57		813.50	栃木			813.50	愛媛			795.00
39位	栃木			738.50	岩手			771.00	鳥取			771.00	茨城		○	784.50
40位	鹿児島			737.00	佐賀			696.00	沖縄			696.00	宮崎			763.50
41位	三重			718.50	宮崎			694.50	山口			694.50	山口			710.50
42位	鳥取			687.50	鳥取			690.50	岩手			690.50	島根			709.50
43位	和歌山			662.50	山口			670.00	和歌山			670.00	沖縄			704.00
44位	沖縄			657.50	三重			664.50	島根			664.50	高知			681.00
45位	徳島			612.50	島根			618.50	宮崎			618.50	鳥取			675.00
46位	島根			575.50	徳島			607.50	徳島			607.50	和歌山			667.00
47位	山口			562.50	和歌山			600.00	高知	57		600.00	徳島			666.50

注一 表中の数字は、国体開催府県であることを表す。（例：第60回大会開催県の場合は「60」）開催年及び前後3年分を示した。

注二 表中の○印は、人口250万人以上の都道府県であることを表す。都道府県の人口は、平成16年度の住民基本台帳人口要覧((財)国土地理協会)による。

注三 第58回(平成15年)から新得点算出方法が採用された。

第62回(平成19年)			第63回(平成20年)			第64回(平成21年)			順位
秋田	62	2673.50	大分	63	2386.50	新潟	64	2426.00	1位
東京	○	2092.00	東京	○	1893.00	東京	○	1910.00	2位
埼玉	59	1906.50	埼玉	○	1878.50	大阪	○	1767.00	3位
神奈川	○	1735.00	神奈川	○	1650.50	埼玉	○	1739.50	4位
兵庫	61	1726.50	大阪	○	1647.50	神奈川	○	1643.00	5位
大阪	○	1542.50	千葉	65	1569.00	千葉	65	1589.50	6位
愛知	○	1455.50	兵庫	61	1507.00	北海道	○	1507.00	7位
千葉	65	1436.00	愛知	○	1502.50	愛知	○	1502.50	8位
京都	○	1416.50	北海道	○	1484.50	京都	○	1507.00	9位
北海道	○	1408.50	福岡	○	1452.50	兵庫	61	1324.50	10位
大分	63	1300.50	京都	○	1435.50	広島	○	1248.50	11位
福岡	○	1297.50	宮城		1230.50	岡山		1238.00	12位
宮城		1247.50	広島	○	1202.00	熊本		1210.00	13位
熊本		1148.50	岡山	60	1195.00	大分	63	1209.00	14位
静岡	○	1139.50	長野		1155.50	宮城		1201.50	15位
岡山	60	1113.00	茨城	○	1148.50	岐阜	67	1194.50	16位
石川		1106.00	岐阜		1144.00	群馬		1175.50	17位
広島	○	1093.00	新潟	64	1129.00	長野		1147.00	18位
新潟	64	1074.00	静岡	○	1064.50	福岡	○	1136.00	19位
岐阜		1071.50	熊本		1038.50	長崎		1034.33	20位
群馬		1051.50	佐賀		1010.50	静岡	○	1029.00	21位
栃木		1032.50	群馬		1009.00	石川		1020.50	22位
長野		1007.00	秋田	62	991.50	茨城	○	995.33	23位
福島		933.00	香川		989.50	香川		977.00	24位
茨城	○	907.00	石川		975.00	鹿児島		932.00	25位
滋賀		903.50	山梨		948.50	栃木		908.00	26位
富山		900.00	鹿児島		947.00	山形		898.50	27位
奈良		896.00	青森		933.00	山口	66	890.50	28位
香川		884.50	栃木		910.50	佐賀		888.50	29位
山梨		882.00	長崎		895.00	秋田	62	868.00	30位
佐賀		872.50	福島		858.50	山梨		859.00	31位
青森		868.00	富山		824.50	福井		837.00	32位
山形		853.50	奈良		823.50	奈良		833.00	33位
岩手		827.50	福井		823.00	青森		803.50	34位
長崎		819.50	山口	66	814.50	福島		788.00	35位
宮崎		819.00	岩手		801.00	愛媛		777.00	36位
三重		795.00	宮崎		789.00	富山		773.00	37位
福井		793.50	山形		779.50	滋賀		758.00	38位
山口		789.00	滋賀		770.50	岩手		744.00	39位
沖縄		771.50	三重		744.50	徳島		739.50	40位
鹿児島		744.00	和歌山		739.00	沖縄		736.50	41位
愛媛		736.50	愛媛		705.00	島根		719.50	42位
鳥取		731.50	徳島		689.00	和歌山		705.00	43位
島根		683.50	沖縄		684.00	三重		691.00	44位
和歌山		641.50	島根		649.00	高知		663.50	45位
高知		593.00	鳥取		626.00	宮崎		622.50	46位
徳島		565.50	高知		581.50	鳥取		598.50	47位

資料4 (財)青森県体育協会加盟団体における競技人口

平成21年3月

	団体名	平成20年度 競技人口	平成18年度と比較した増減			備考
			増	減	変わらない	
1	(財) 青森県スキー連盟	2,429		○		小・中学生は概数。
2	青森県スケート連盟	233	○			
3	青森県アイスホッケー連盟	949		○		
4	青森県水泳連盟	911	○			
5	青森県ボート協会	139		○		
6	青森県セーリング連盟	104			○	
7	青森県カヌー協会	49	○			
8	青森陸上競技協会	6,935	○			小学生を含むが、小学生は登録制ではない。
9	(社) 青森県サッカー協会	9,232		○		
10	青森県テニス協会	768		○		
11	青森県ホッケー協会	159	○			
12	青森県アマチュアボクシング連盟	189			○	
13	青森県バレーボール協会	4,349		○		
14	青森県体操協会	280		○		
15	青森県バスケットボール協会	12,944	○			
16	青森県レスリング協会	256		○		
17	青森県ウエイトリフティング協会	110		○		
18	青森県ハンドボール協会	728		○		
19	青森県自転車競技連盟	113			○	
20	青森県ソフトテニス連盟	6,423	○			
21	青森県卓球連盟	5,586		○		
22	青森県軟式野球連盟	11,748	○			
23	青森県相撲連盟	290		○		
24	青森県馬術連盟	128	○			
25	青森県柔道連盟	2,978		○		
26	青森県ソフトボール協会	2,580	○			
27	青森県フェンシング協会	103			○	
28	青森県バドミントン協会	2,433		○		
29	青森県弓道連盟	1,871		○		
30	青森県ライフル射撃協会	29			○	
31	青森県剣道連盟	3,580			○	
32	青森県ラグビーフットボール協会	1,254		○		
33	青森県山岳連盟	15			○	国体等大会に出場する数。
34	青森県クレ射撃協会	47	○			
35	青森県銃剣道連盟	656	○			
36	青森県アーチェリー協会	291	○			
37	青森県空手道連盟	830		○		
38	青森県なぎなた連盟	194	○			
39	青森県ボウリング連盟	452		○		
40	青森県少林寺拳法連盟	780		○		
41	青森県躰道協会	110			○	
42	青森県トランポリン協会	169	○			
43	青森県ゴルフ連盟	317	○			
44	青森県ゲートボール協会	993		○		
45	青森県バイアスロン連盟	38		○		
46	青森県合気道連盟	400		○		
47	青森県武術太極拳連盟	778		○		
48	青森県綱引き連盟	48		○		
49	青森県ボールルームダンス連盟	202	○			
50	青森県グラウンド・ゴルフ協会	2,076			○	
51	青森県カーリング協会	177	○			
52	青森県ユニバーサルホッケー協会	134		○		
53	青森県野球連盟(社会人)	226	○			
54	青森県トライアスロン協会	42			○	登録数のみ。競技者は約4倍。
55	青森県バウンドテニス協会	252			○	
56	青森県ダンススポーツ連盟	222			○	
57	青森県ウオーキング協会	2,050	○			
	合計	91,379	19	25	13	

青森県スポーツ振興計画の重点的推進項目

目標	施策の方向性	県の役割	市町村・関係団体等の役割	
県民の豊かなスポーツライフの実現	1 子どものスポーツ活動の推進	(1) 子どものスポーツ環境の充実	各地域における子どものスポーツ活動の推進体制構築への支援 外部指導者の活用推進 先進的取組の普及	体育指導委員による子どものスポーツ活動の推進 関係団体等の連携促進 地域クラブ等の連携による多種目型活動の展開
		(2) 外遊びやスポーツ活動の奨励	子どもの外遊びやスポーツ活動奨励のための啓発活動 発育・発達段階に対応した活動プログラムの開発 「新体力テスト調査」の結果の普及啓発	親子でスポーツの楽しさを体験する機会の提供 体を動かす楽しさを感じさせる取組の実施 参加しやすく、スポーツへの動機付けを高める取組の実施
	2 地域スポーツの推進	(1) 総合型地域スポーツクラブの育成	青森県広域スポーツセンターによる総合的な支援	総合型クラブ育成を盛り込んだ市町村スポーツ振興計画の策定・改定 総合型クラブ育成の推進 総合型クラブ運営への支援 学校と総合型クラブの連携
		(2) 地域のスポーツ活動を支える人材の育成	指導者研修会の充実 関係団体等との連携による人材の活用策の検討	体育指導委員活動の活性化 人材の発掘・育成
	3 ジュニア競技者の育成・強化	育成強化システムの構築	競技者育成プログラムの普及 競技団体による強化体制構築への支援 運動部活動指導者の養成・確保 選手強化事業への支援	強化体制の構築 本県版指導プログラムの作成 指導者の育成、研修機会の確保 有望選手の発掘・育成

## 国のスポーツ振興基本計画（概要）

### 計画の背景

スポーツ振興法の規定に基づき、平成12年9月に文部科学大臣告示として策定。（平成13年度（2001年）～22年度（2010年）の10年計画）

計画策定から5年が経過したことに伴い、中央教育審議会スポーツ・青少年分科会の意見を踏まえ、平成18年9月に計画を改定。

### 計画の概要

#### 1. スポーツの振興を通じた子どもの体力の向上方策

**子どもの体力について、スポーツの振興を通じ、その低下傾向に歯止めをかけ、上昇傾向に転ずることを目指す。**

##### A. 政策目標達成のため必要不可欠である施策

- ①子どもの体力の重要性について正しい認識を持つための国民運動の展開
- ②学校と地域の連携による、子どもを惹きつけるスポーツ環境の充実

##### B. このための基盤的施策

- ①教員の指導力の向上
- ②子どもが体を動かしたくなる場の充実
- ③児童生徒の運動に親しむ資質・能力や体力を培う学校体育の充実
- ④運動部活動の改善・充実

#### 2. 生涯スポーツ社会の実現に向けた、地域におけるスポーツ環境の整備充実方策

**できるかぎり早期に、成人の週1回以上のスポーツ実施率が50パーセントとなることを目指す。**

##### A. 政策目標達成のため必要不可欠である施策

###### ○総合型地域スポーツクラブの全国展開

- ①2010年までに、全国の各市町村において少なくともひとつは総合型地域スポーツクラブを育成。（将来的には中学校区程度の地域に定着）
- ②2010年までに、各都道府県において少なくともひとつは広域スポーツセンターを育成。（将来的には広域市町村単位に設置）

##### B. このための基盤的施策

- ①スポーツ指導者の養成・確保・活用
- ②スポーツ施設の充実
- ③地域における的確なスポーツ情報の提供
- ④住民のニーズに即応した地域スポーツの推進

#### 3. 我が国の国際競技力の総合的な向上方策

**オリンピックにおけるメダル獲得率が、夏季・冬季合わせて3.5パーセントになることを目指す。**

##### A. 政策目標達成のため必要不可欠である施策

- ①ジュニア期からトップレベルに至るまで一貫した理念に基づき最適の指導を行う一貫指導システムの構築
- ②ナショナルトレーニングセンター中核拠点施設の早期整備や競技別強化拠点の指定と支援
- ③指導者の養成・確保（選任化の促進、ナショナルコーチアカデミー制度の創設等）
- ④競技者が安心して競技に専念できる環境の整備

##### B. このための側面的施策

- ①スポーツ医・科学の活用
- ②アンチドーピング活動の推進
- ③国際的又は全国的な規模の競技大会の円滑な開催等
- ④プロスポーツの競技者等の社会への貢献の促進

# 青森県スポーツ振興計画策定までの経過

## 1 諮問（平成20年8月11日）

青森県教育委員会が青森県スポーツ振興審議会（第110回審議会）に対し、本県の新しいスポーツ振興計画について諮問。

## 2 青森県スポーツ振興審議会の審議（平成20年10月31日～平成21年12月15日）

- ・スポーツ振興計画骨子案について

小委員会（第1回～第2回）、第111回審議会

- ・スポーツ振興計画素案について

小委員会（第3回～第4回）、第112回審議会

- ・スポーツ振興計画答申案について

小委員会（第5回～第7回）、第113回審議会

## 3 答申（平成21年12月21日）

青森県スポーツ振興審議会が青森県教育委員会に、次期青森県スポーツ振興計画について答申。

## 4 パブリック・コメント（平成22年1月22日～2月22日）

県民に対し、「青森県スポーツ振興計画（案）」のパブリック・コメントを実施。

## 5 計画策定（平成22年3月27日）

青森県教育委員会定例会において「青森県スポーツ振興計画（案）」を付議、決定。